

第2章 中区の福祉保健に関する現状

1 中区の特性

中区は横浜市の臨海部の中央に位置し、開港以来の歴史的・文化的資源が数多く存在することが魅力の一つです。

また、市の中心区として、行政、商業、港湾、観光など多様な都市中枢機能を担っています。このため、昼夜間人口比率の高さ、転出入の多さなど、都市部ならではの特徴が表れています。

<p>1 人口</p> <p>人口は約15万人 18区中15位 (令和2年4月1日時点)</p> <p>緩やかに増え続け、特に高齢者の人口が増えています。</p>	<p>2 世帯</p> <p>単身世帯の割合は56.7% 18区中1位 (平成31年3月末時点)</p> <p>特に75歳以上の一人暮らし世帯が増えています。</p>	<p>3 多文化共生</p> <p>外国人の人数・比率ともに 18区中1位 (平成31年4月末時点)</p> <p>国籍によらず、お互いに認め合い、支え合って暮らすことが必要です。</p>
<p>4 健康</p> <p>平均自立期間は男性が約76歳、女性が約82歳 (令和元年時点)</p> <p>男女とも市平均より短く、健康に関する正しい知識と日々の健康づくりが必要です。</p>	<p>5 地域活動</p> <p>自治会町内会加入率は 18区中17位 (令和2年4月1日時点)</p> <p>自治会町内会は防災・防犯、清掃活動など、日々の暮らしを支えており、多くの住民の参加が必要です。</p>	<p>6 子育て</p> <p>生まれた子どものうち第1子である割合は18区中4位 転入数は18区中1位 (令和2年1月1日時点)</p> <p>転入者が多く、気軽に子育ての相談ができる環境が必要です。</p>
<p>7 高齢化</p> <p>高齢化率は23.5% 18区中12位 (令和3年3月1日時点)</p> <p>地域により高齢化率に差があります。</p>	<p>8 障害</p> <p>障害者手帳を持つ人の比率は5.4%、18区中3位 (手帳所持者数は令和3年3月末、人口は令和3年4月1日時点)</p> <p>地域には身体障害者・知的障害者・精神障害者など様々な人が暮らしています。</p>	<p>9 働く人</p> <p>事業所数は18区中1位 (平成28年6月1日時点) 昼夜間人口比率は18区中2位 (平成27年10月1日時点)</p> <p>区外からの通勤通学者が多く、住民以外の働く人も中区を支えています。</p>

1・2 人口・世帯

人口は約15万人で18区中15位(令和2年4月1日時点)
世帯数は約8万世帯で、うち56.7%は単身世帯(平成31年3月時点)

中区の人口は増え続けていますが、2032年をピークに増加が止まり、減少していくと予想されています。世代別では、特に15~64歳の人口が減り、65歳以上の高齢者人口が増えていくと予想されています。【図1】

世帯数も増え続けており、中でも75歳以上の単身世帯は増える傾向が見られます。【図2】

総世帯数に占める単身世帯の割合は56.7%で、市内で最も高い割合になっています。高齢者だけでなく、他の世代も含めて単身で暮らす人が多いことが特徴です。【図3】

また、住民の転入数と転出数の差を表す社会増減率は市平均0.36に対し中区は1.26と高く、人の入れ替わりが多いことも特徴です。(令和2年度)

図1 中区の人口・世帯数の将来推計

(基準時点は2015年。年齢不詳を含みます。各年1月1日時点の推計人口)

人口・世帯数の将来推移

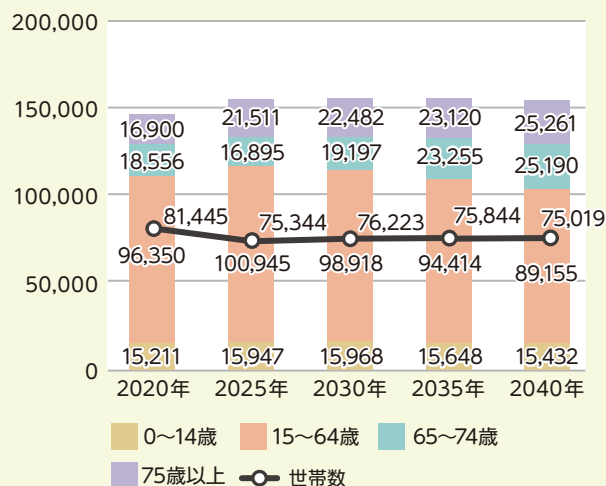
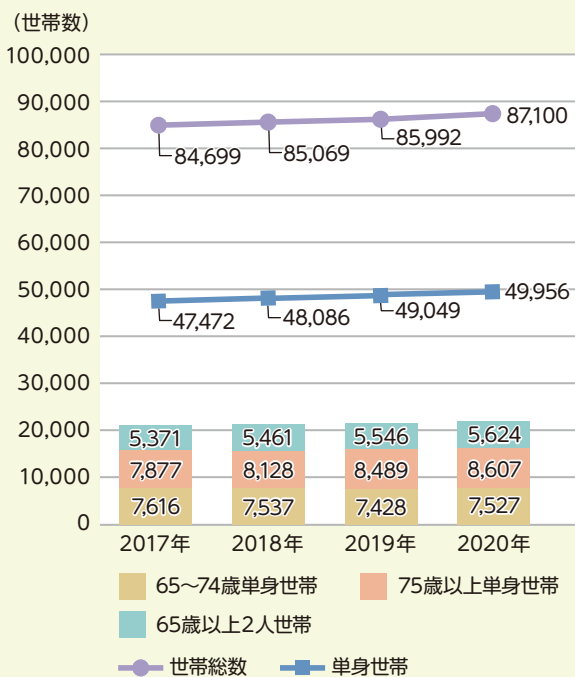


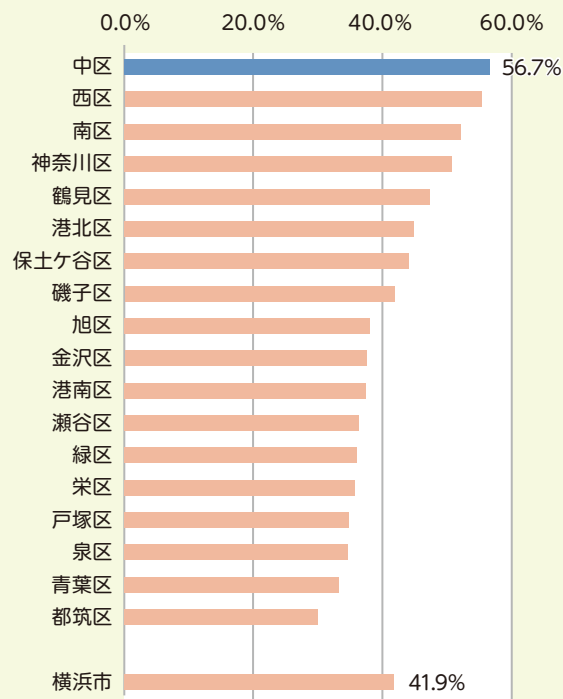
図2 世帯総数・高齢単身世帯・高齢2人世帯状況



各年3月末時点

出典:横浜市統計情報ポータル

図3 総世帯数に占める単身世帯の割合(区別)



平成31年3月時点

出典:横浜市統計情報ポータル

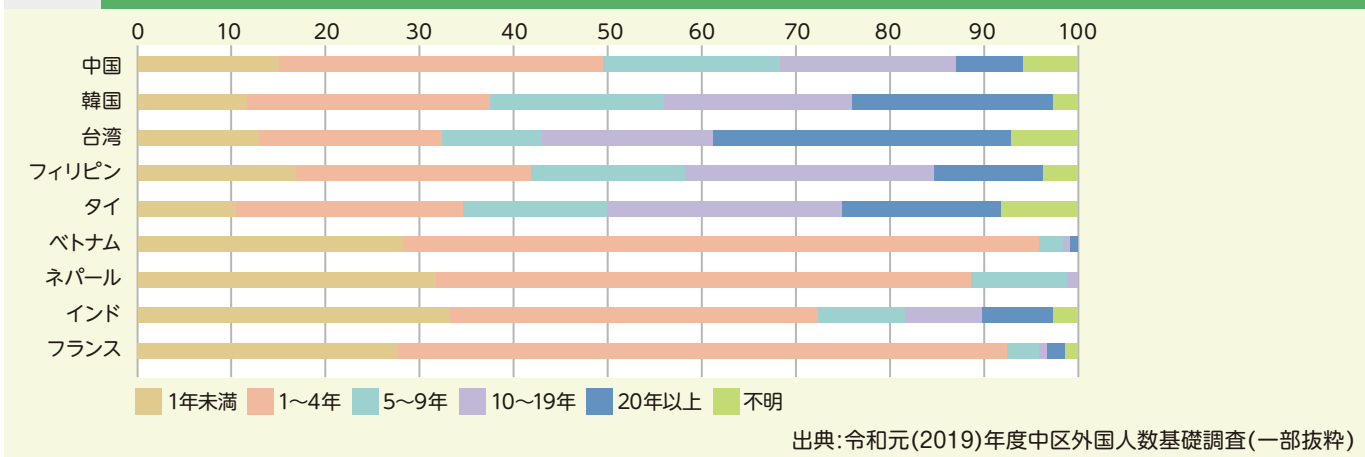
3 多文化共生

外国人数は17,041人、人口比率は11.2%で共に市内1位
(平成31年4月時点)

中区の外国人数は17,041人、人口比率は11.2%。他区に比べ、外国人数・比率ともに1位です。(平成31年4月時点)平成21年から平成30年までの期間に、約1,000人増(市全体は2万人増)で、緩やかな増加傾向が見られます。出身は93の国(地域)に及び、多国籍化の傾向が強まっています。国籍・地域別では中国が55%で最も多く、次いで韓国、台湾、フィリピンとなっています。近年はベトナム、ネパールが急増しています。

中区での平均滞在年数は7.71年で、滞在年数が4年以上の外国人が全体の48%を占めています。中国、韓国、台湾、フィリピン、タイは5年以上の中長期滞在者が多い一方で、ベトナム、ネパール、インド、フランスは滞在年数が4年以下の割合が多くなっています。このように国籍によって滞在期間の二極化が見られます。【図4】

図4 滞在年数別外国人数の比率

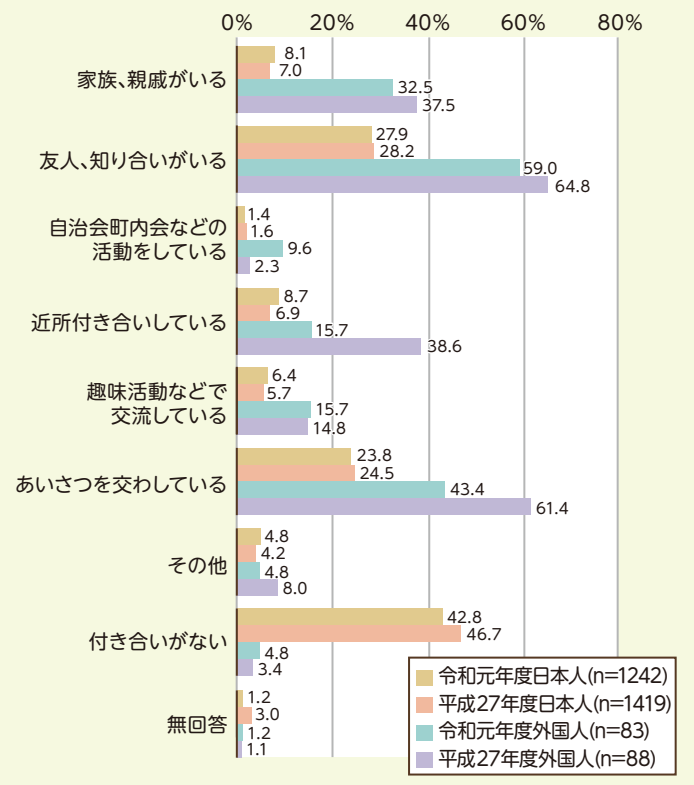


令和元年度中区区民意識調査では外国人が増えていくことを「自然な傾向である」と思う人が80%を超える一方、「生活のマナーやルールが守られなくなる」等の不安の声も混在しています。

外国人と日本人の交流については、日本人では、「外国人との付き合いがない」の割合が最も高く約40%を超え、外国人では、日本人の「友人、知り合いがいる」の割合が約60%と最も高くなっています。一方で、外国人の調査結果では平成27年度調査に比べ、「あいさつを交わしている」「近所付き合いしている」の割合が大きく下がりました。【図5】

図5 令和元年度中区区民意識調査

問17「あなたは現在、外国人/日本人の方とどのような交流がありますか」
日本人/外国人別_経年比較



4 健康

平均自立期間は男性76.97歳、女性82.28歳で共に横浜市平均を下回っている。
(令和元年時点)

平均自立期間とは「日常生活に介護を要しない期間の平均」を指します。また、平均寿命は0歳の人があと何年生きられるかを指します。中区は男女ともに横浜市平均と比べて平均自立期間が短いという特徴が見られます。【図6】

また、65才以上の要介護認定者の割合も高くなっています。【図7】

いつまでも健康に一人ひとりが自立した生活を送るためには、若いころからの生活習慣が重要です。特に自立期間を伸ばすことは、生活の質の維持・向上にもつながります。

図6 令和元年平均自立期間(中区・横浜市)

	男		女	
	平均自立期間	平均寿命	平均自立期間	平均寿命
横浜市	79.73	82.03	83.36	87.79
中区	76.97	79.57	82.28	87.42

出典:健康福祉局

図7 要介護認定者数の65歳以上人口比

中区	横浜市
20.6%	18.5%

出典:
横浜市統計情報ポータル

令和元年度中区区民意識調査では自身の健康状態をどう感じているかを尋ねたところ、「健康である」が33%、「どちらかという健康である」が45.4%で、これらを合わせた80%近くの人が自身を健康と感じています。【図8-1】

一方で、年代別で見ると、70歳以上の区民は30%以上の人が自身を健康でないと感じていました。【図8-2】

図8 令和元年度中区区民意識調査

問25「あなたはこの1か月間のご自身の健康状態をどう感じていますか」

図8-1: 全体

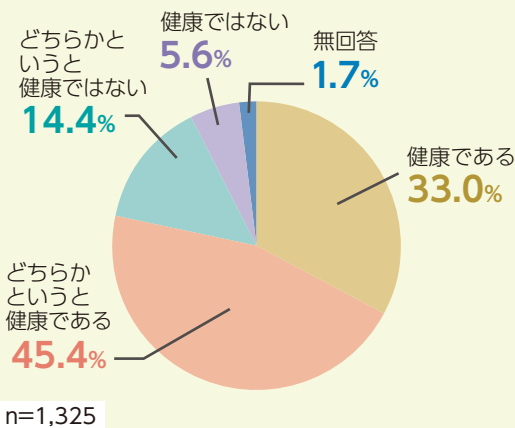
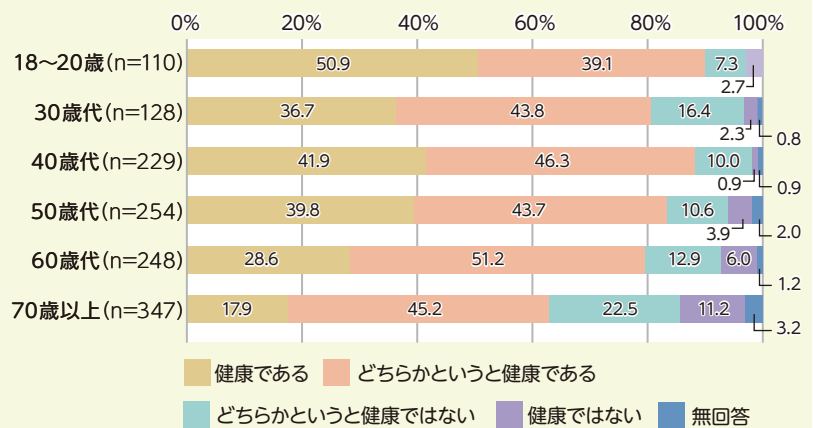


図8-2: 年代別



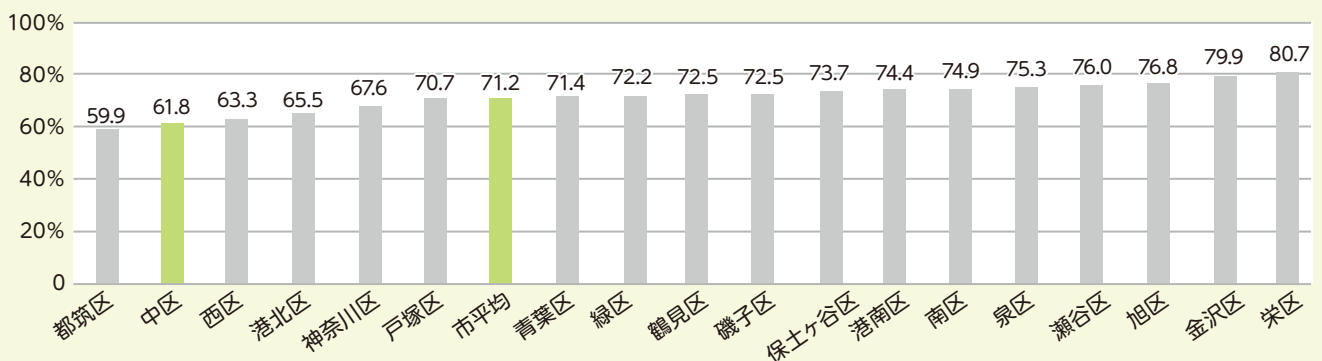
5 地域活動

自治会町内会加入率は61.8%で市平均71.2%に対し低い傾向
18区中17位(令和2年4月1日時点)

自治会町内会は、近くにお住まいの方々の交流を深め、そこで起こる様々な課題を解決するためにつくられた住民団体です。お祭りや運動会などの楽しいイベントのほか、防災・防犯、清掃活動など、日々の暮らしを支える活動を行っています。中区の自治会町内会加入率は61.8%で、市平均71.2%に対し低い傾向にあります。【図9】

地域の活動に参加することで、人を知り、まちを知ることができ、安全・安心で、笑顔があふれる地域づくりにつながります。

図9 区別自治会町内会加入率



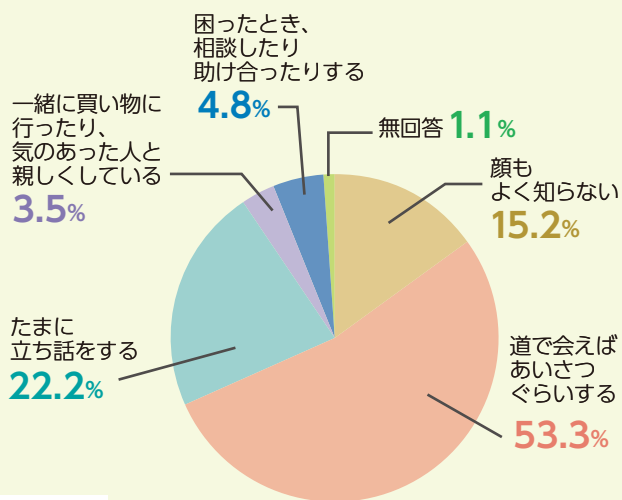
出典:自治会町内会調査結果(市民局・地域活動推進課)

令和元年度中区区民意識調査では、隣近所との普段の付き合い方について「道で会えばあいさつぐらいする」が53%、「たまに立ち話をする」が22%、「顔もよく知らない」が15%となりました。【図10】

「隣近所との付き合い方」については、「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」が70%超となっており、特に賃貸(マンション等共同住宅)居住者では、「顔もよく知らない」が30%を超え、隣近所との交流がほとんどない人もいる様子が見えます。【図11】

図10 令和元年度中区区民意識調査

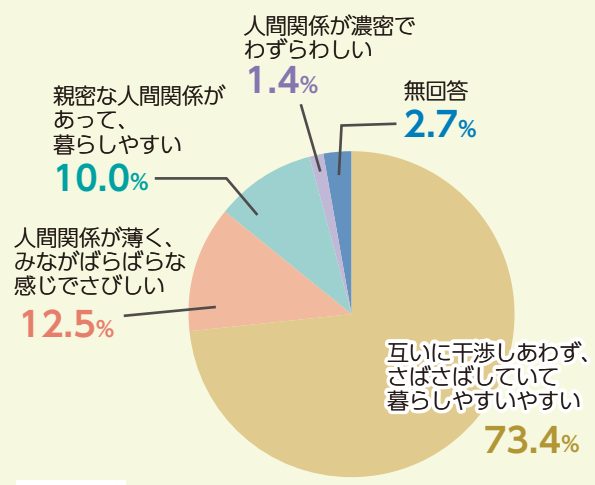
問26「あなたは隣近所との普段どのような付き合いをしていますか」



n=1,325

図11 令和元年度中区区民意識調査

問27「あなたは隣近所との付き合いをどのように感じていますか」



n=1,325

6 子育て

14歳以下の子どもの総数は約15,000人で18区中15位
(令和2年1月1日時点)

中区の子どもの数は減少し続けており、出生数は年間1,000人以下となっています。

中区は出生数に占める第1子の割合も高いことから、初めての子育てに戸惑いながら、孤立して子育てをすることにつながりやすい地域特性があります。

また、文化の違う中で子育てを行う外国人も孤立が心配されます。子どもの親は、近所との付き合いも減る中、子どもの世話をした経験がなく、子育てに対する不安感・負担感を抱えやすい環境に置かれています。【図12】

図12 中区の子どもに関連する数値

出生数……………	789人(令和元年)	18区中/16位
出生数に占める第1子の割合……………	55.6%(令和元年)	18区中/4位
人口に占める外国人の割合……………	11.2%(平成31年)	18区中/1位

出典:横浜市統計情報ポータル

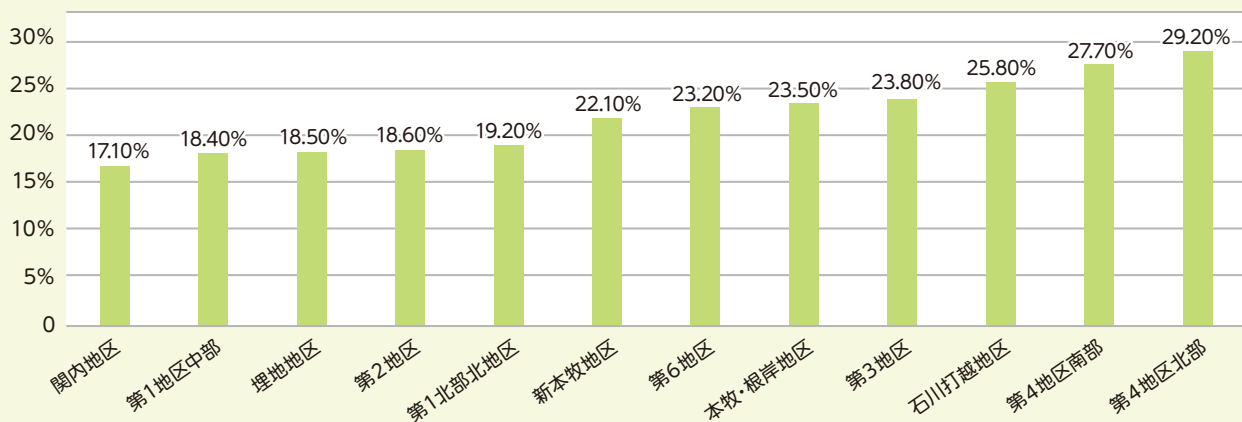
7 高齢化

高齢化率は23.5%で18区中12位(令和3年3月1日時点)

中区の高齢化率は上がり続けているものの、市の高齢化率24.7%(令和3年3月1日時点)と比べるとやや低く、他区に比べると高齢化のスピードは緩やかです。

区内でも勤労世帯が多く居住している地区の高齢化率は低く、地域による高齢化率の差が激しいことが特徴です。【図13】

図13 地区別高齢化率



平成31年3月時点

出典:横浜市統計情報ポータル

8 障害

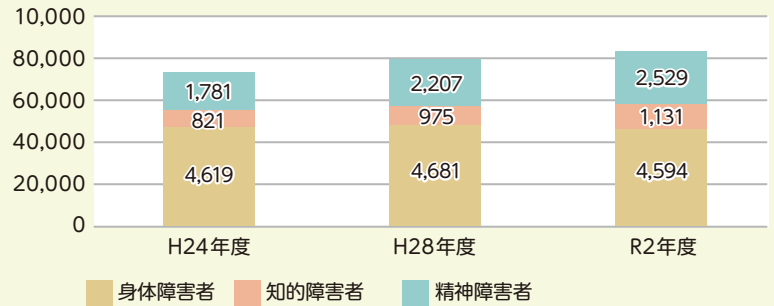
障害者手帳を持つ人の比率は5.4%で18区中3位
(手帳所持者数は令和3年3月末時点、人口は令和3年4月1日時点)

障害者手帳を持つ人は令和2年度で8,254人となっています。近年、身体障害者はやや減少している一方、知的障害者・精神障害者はともに増加しています。地域には障害のある方も多く暮らしています。【図14】

※参考:精神障害者把握数の変化「精神障害者把握数」とは、精神障害者保健福祉手帳の有無にかかわらず、中福祉保健センターが相談等により把握している人数を指し、年々増加傾向にあります。

平成24年度	平成28年度	令和2年度
6,975	8,808	10,284

図14 障害者手帳所持者数の変化



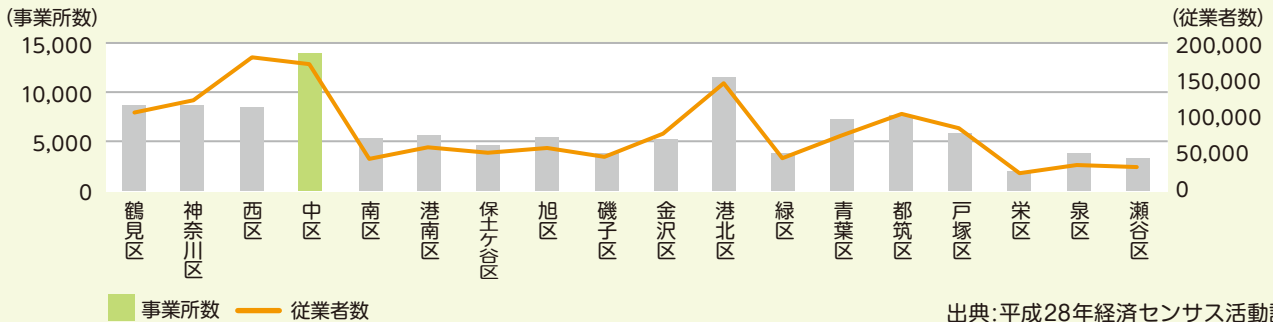
各年度3月末時点 出典:中区統計便覧(2020年版)及び横浜市統計情報ポータル

9 働く人

事業所数は13,878で18区中1位
従業者数は171,774で18区中2位(平成28年6月1日時点)

中区の事業所数及び従業者数は、平成21年以降、減少傾向にあります。平成28年時点で事業所数は18区中最多で、従業者数は西区に次いで多くなっています。【図15】

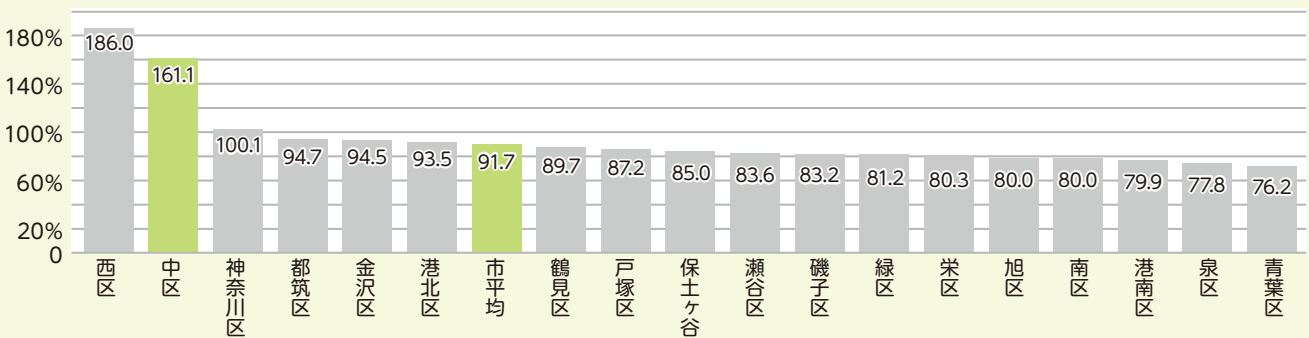
図15 区別事業所数・従業者数



出典:平成28年経済センサス活動調査

昼夜間人口比率は西区に次いで高く、区外からの通勤通学者が多いことが特徴です。住民以外の働く人も中区を支えているといえます。【図16】

図16 昼夜間人口比率 ※昼夜間人口比率は、夜間人口を100した場合の昼間人口を表しています。



平成27年10月1日現在

出典:中区統計便覧(2020年版)

第3期計画は、2つの推進の柱「えん結び」と「元気いっぱい」に沿って、取組を進めてきました。

推進の柱

1

中なかいいネ!で“えん”結び

地域の見守り力を高めるために、近隣で顔見知りを増やし、困ったときに早めに気づいて、助け合いによる解決ができるように進めました。

主な取組と成果

1 地域の中の緩やかな見守り体制の構築

民生委員・児童委員が行うひとり暮らし高齢者等「地域で見守り」推進事業、地域ケアプラザが行っている見守りキーホルダーの配付など、住民と関係機関が連携して見守りをしました。



見守りキーホルダー



おふくろさんグッズ

2 ネットワークの広がり

中区子ども食堂ネットワーク、障害者自立支援協議会、区民利用施設の連携事業など、関係機関が集まり意見交換をすることで、ネットワークが広がっています。



関内さくらホームレストラン



啓発ポスター

3 必要な人に必要な支援が行き届く仕組みづくり

災害時要援護者支援事業、生活支援KBT(希望の友)の立ち上げと運営支援など、行政サービスでは十分でない部分を住民と協働して取り組みました。



災害時要援護者支援講演会



生活支援KBT(希望の友)

中なかいいネ!で元気いっぱい

区民の「健康づくり」として、生活習慣病の予防や介護予防と子どもの健全育成を目指し、誰もが参加できる取組を行いました。

主な取組と成果

1 気軽に参加できる健康づくり

ラジオ体操の普及、てくてくウォーキング事業等、誰もが身近な場所で参加できる健康づくりに取り組みました。



ラジオ体操



てくてくウォーキング事業

2 子どもの健全育成

食育推進事業やイベント、子ども支援プログラム(生活スキル向上のための体験プログラム)等の食や生活など、幅広い視点から子どもの健康づくりに取り組みました。



食育推進事業



子ども支援プログラム

3 高齢者の介護予防

元気づくりステーション、認知症予防「コグニサイズ」等、身近な場所で介護予防に取り組みました。また、介護予防の担い手育成と高齢者が自ら介護予防に取り組めるような仕組みづくりをしました。



元気づくりステーション



「中区脳トレコグニサイズ」DVDの作成